

日本地衣学会

No.16

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	会務報告.....	55
	猪八重溪谷付近のクレー射撃場候補地計画についての要望書 会長/吉村庸.....	55
	日本分類学会連合2003年度第1回総会報告.....	56
	ニュース.....	57
	第2回青空地衣教室(田沢湖)のご案内.....	57
	第3回青空地衣教室(箱根)のご案内.....	58

会務報告 Reports from the JSL Activities

猪八重溪谷付近のクレー射撃場候補地計画についての要望書

平成 15 年 2 月 23 日

宮崎県知事 松形祐亮 様
宮崎県教育長 岩切正憲 様

宮崎県の猪八重溪谷付近が宮崎県スポーツ振興課所管事業のクレー射撃場の建設候補地とされていること、それに関連して蘚苔類やシダ植物の関係者より候補地の変更についてすでに要望が出されていることを最近になって知る機会を得ました。猪八重については地衣類についても極めて重要な地域であり、その保護について格別のご配慮をお願いいたします。

わが国の地衣類の研究は大型の種類からはじまりましたが、ようやく最近では微小な種類の研究が始まっています。貴重な南方系の地衣は小笠原諸島や琉球列島を除くと、宮崎県で発見されることが多く、しかも猪八重

溪谷で見つかっています。宮崎県レッドデータブックに掲載された地衣類 6 種類の内、5 種類は猪八重で採集されたものです。しかも最近になって研究され始めた生葉状地衣類は琉球列島を除くと、宮崎県、高知県、和歌山県などが生育の候補地ですが、一番可能性が高いのは宮崎県であり、しかも猪八重溪谷です。猪八重溪谷で発見されたアカチクビゴケは小笠原諸島、琉球列島以外では猪八重でしか発見されていません。これらの地衣類の成分については、従来から医薬品、香料、染料などに利用されてきています。しかも、抗菌性、抗毒性などのほか各種の生理作用が見つかり、最近では微量の天然資源

からでも培養技術の進歩から実用化の可能性が広がっています。これらの生物資源は多くは熱帯地方にありますが、多くの国では、利用の価値が定まっていない種類でも、可能性を求め、生きたままの輸出を禁止するなどの措置がとられています。したがって、地衣類の分類、分布上の学術的な観点からのみでなく、将来のわが国の資源確保の観点から猪八重溪谷の地衣類環境の保全が必要なのです。

地衣類の生育環境は極めて微妙です。例えば樹皮に着生した地衣類を樹木ごと移植したとしても樹木は生育しても地衣類は生育できません。ごく微妙な環境の変化で生育できなくなります。光と空中湿度、特に地衣類では微妙な乾湿の変化、空気中の塵や微量成分(亜硫酸ガスや亜硝酸など)による生育に及ぼす影響があります。地衣類が生育している場所を残しても周辺の環境が変化すれば地衣類は生育できなくなります。地衣類の保全には広い範囲の環境の保全を必要とします。

地域活性化のためには開発も必要でしょうが、猪八重溪谷の蘚苔類地衣類の保存にはかなりの周辺地域を含めた環境保全が必要で、誤った判断により万一貴重な生物資源が失われたなら取り返しのつかないこととなります。

わが国の常緑広葉樹林帯は人々の生活地であり、良好な状態で残存している箇所はほとんど絶無に近い状態になってきています。猪八重溪谷は北郷町・宮崎県ばかりでなく日本の貴重な宝であることに思いを致され、保全のための必要な措置をとられますようお願いいたします。問題になっているクレー射撃場の建設場所については他の適当な場所を選定していただけるように希望いたします。

日本地衣学会 会長 吉村 庸

宮崎県のレッドデータブックに掲載されている地衣類など貴重な植物群が生育する猪八重溪谷付近をクレー射撃場の建設予定地とすることへの要望書を地元北郷町議会が議決し、県に提出されています。この事態に鑑み、服部研究所が計画変更の要望書をすでに県に提出し、蘚苔類学会も計画変更の要望書を提出しています。緊急でしたので本会も会長名で要望書(上述)を提出することにし、評議員の皆様にご連絡して、ご了解を頂きました。

(山本好和：庶務幹事)

日本分類学会連合 2003 年度第 1 回総会報告

日本分類学会連合 2003 年度第 1 回総会が、1 月 11 日午前 10 時より国立科学博物館分館(新宿)において開催された。総会は連合役員および加盟している 25 団体の代表者で構成され、日本地衣学会からは原田浩氏(吉村会長の代理)と岡本の 2 名が代表として出席した。

連合代表(東京大・加藤雅啓氏)の挨拶、議長選出(日本蜘蛛学会・吉田真氏)の後に議事に入り、まず報告事項として、庶務、会計、ニュースレター、ホームページ、日本産生物種数調査ワーキンググループ、メーリングリストの各担当者から、2002 年度の活動内容等が報告された。その後、2002 年度に新たに加盟した 6 団体(日本地衣学会も含む)について、簡単な自己紹介が行

なわれた。

引き続き、2003 年度事業計画、2002 年度決算(案)、2003 年度予算(案)が審議、了承された。このうち、日本地衣学会に関係がある事項を中心に簡単にご報告する。

第 3 回シンポジウム

2004 年 1 月に開催し、移入種の問題を取り上げる予定。シンポジウムは毎年開催するので、テーマとして相応しいものがあれば、是非連合の方に提案していただきたいとのことである。

ニュースレター

今年度も 2 回発行する。毎号、加盟団体の紹介を 4~

5 団体ずつ掲載する。

ホームページ (<http://www.bunrui.info/>)

ニュースレター、シンポジウムの案内等を公開する予定。

メーリングリストおよび個人登録

主に加盟団体の会員を対象としたメーリングリストの運用を開始し、生物の分類や分類学に関する情報交換を行なう予定。なお、学会連合に加盟している 25 団体の会員数は、合計で約 15000 名とのこと（重複を含む）。

日本産生物種数調査

加盟団体や研究者の協力のもと、昨年から行なっている。今年度は情報提供者への試験公開を経て、ホームページでの一般への公開を行なう予定。その際には著作権等に十分配慮する。

日本タイプ標本データベース

国内の分類研究者および国内に所蔵されているタイプ標本のデータベース作成に着手する予定。GTI (Global Taxonomy Initiative), GBIF (Global Biodiversity Information Facility)との連携事業。

GBIF との連携

上記のタイプ標本以外に、各標本庫の所蔵標本（タイプ以外を含む）データベース、日本産生物の学名、和名のチェックリストの作成を検討中。

分担金

現在連合は、設立時に旧動物分類学会連合から引継いだ資産を中心に運営されているが、繰越金は年々減少している。そこで 2004 年度からは、各加盟団体に年間 1 万円の分担金をお願いできないか、とのことであった。

なお、総会の後に、「日本の生物はどこまでわかっているか 既知の生物と未知の生物」（11 日午後）、「ヨーロッパが所蔵する日本産生物タイプ標本 日本の生物多様性研究発展の鍵」（12 日午前・午後）と題したシンポジウムが開催された。特に 11 日の午後は立ち見が出るほどの盛況で、最近の生物多様性への関心の高まりを反映しているであろう。

（岡本達哉：学術交流委員長）

ニュース News and Announcements

第 2 回青空地衣教室（田沢湖）のご案内

つぎのとおり開催します。参加ご希望の方は下記申し込み先まで連絡して下さい。

記

日時

2003 年 5 月 17 日（土曜日） 集合 11:20（JR 田沢湖駅）

場所

田沢湖畔（県民の森、渦尻、御座石神社）
自動車で移動します。

参加費

無料

行程

9:00 秋田県大秋田キャンパス第 2 駐車場出発
11:30 JR 田沢湖駅出発
11:45 県民の森

12:15 昼食（田沢湖畔の食堂で）

13:15 御座石神社

15:00 渦尻（たつこ姫像）

15:50 JR 田沢湖駅着

18:00 秋田県大秋田キャンパス第 2 駐車場着

申込先・連絡先

小峰 正史 (mkomine@akita-pu.ac.jp)

原 光二郎 (kojiro_h@akita-pu.ac.jp)

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科次世代生物生産システム学講座

Tel 018-872-1647,1648 FAX 018-872-1678

主催

日本地衣学会 地域活性化委員会 東北

（山本好和：地域活性化委員会 東北）

第3回青空地衣教室（箱根駒ヶ岳）のご案内

つぎのとおり開催します。参加ご希望の方は下記申し込み先まで連絡して下さい。

記

日時： 2003年6月1日（日曜日）

集合 12:30（箱根園駒ヶ岳ロープウェイ乗場）

場所： 箱根駒ヶ岳山頂一帯と芦ノ湖湖畔

講師： 原田 浩先生（千葉県立中央博物館）

参加費： 1000円（家族でも同額）、ただし学生は500円

行程

12:30 駒ヶ岳ロープウェイ集合（箱根園）。

「原色日本地衣植物図鑑」を抱えている人に声をかけてください。

小田原駅東口バスのりば5番の伊豆箱根バス「箱根園行き」で所要時間1時間15分。毎時5分に発車。湯本駅通過時刻は20分。料金は1270円。

車の方は箱根園に駐車場があります（1日700円）。

昼食を済ませて集合してください。箱根園には食事場所が多数ありますが、山頂にはお菓子程度しか販売していません。

13:00 ロープウェイ（往復1050円）で駒ヶ岳山頂に

上がり主に岩上生の地衣類を観察します。現地状況によっては早めに箱根園に下り、箱根園～湖畔一帯で主に樹木に着生する地衣類を観察することにします。

16:00 箱根園で解散

持ち物

雨具、10～20倍のルーペを忘れずに。「校庭のコケ」（全国農村教育協会発行¥1905）を用意されるといっそう楽しめます。

申し込み、現地案内

安斉唯夫 kozaiwa@jcom.home.ne.jp,
Fax 03-6780-8818, 電話ゼルグブランニング
044-900-8818

木下靖浩 ponkichi@mtj.biglobe.ne.jp

当日の緊急連絡先

安斉唯夫携帯電話 0902-759-7872

木下靖浩携帯電話 0901-264-9858

主催

日本地衣学会 地域活性化委員会 関東

（安斉唯夫：地域活性化委員会 関東）

Lichenology 日本地衣学会ニュースレター

とも、投稿先は：

原田 浩：〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2
千葉県立中央博物館。Fax 043-266-2481。
E-mail: h.hrd3@mc.pref.chiba.jp

（原田浩：編集委員長）

複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌13号46ページに。

Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication,

you or your organization must obtain permission. For details, see no. 13, p. 46 of this publication.

日本地衣学会ニュースレター 16号

発行日：2003年4月20日

編集： 原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内
